

軍隊政治特集：国家主席終身制と軍事闘争準備

漢和防務評論 20180605(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は憲法を改正し、国家主席の再任に関する制約を撤廃しました。漢和は記事のなかで国内的なその背景を明らかにしました。また習近平は、ロシアがクリミアを併合した経過を研究し、“台湾解放”の参考にしているとのこと。

平可夫モスクワ

第一部 「プーチンを学習」

習近平は改憲を決定し、国家主席の再任制限を廃止した。たとえ期限を設けたとしても、彼の再任は無制限であることに注意して欲しい。多くの人々は騒然とし驚いた。どの程度の驚きだったのか？モスクワでは、主な外交消息筋、情報関係者及び対中政策専門家達は、ほとんど誰も驚かなかった。

KDR も全く驚かなかった。第一に、中国政治の流れを振り返って見てほしい。習近平は、政権を握った当初から、“毛主席を熱愛する”と宣言し、毛主席を学習し、毛沢東に追いつけ、追い越せ、の姿勢を貫いてきた。**KDR**は何度も中国の政治を熟知する高級政治専門家の話を引用した：「習近平は、鄧小平すらも眼中にない。彼にとって鄧小平が制定した”幹部リタイヤ制度”は無用のものだ」と。

多くの人々は、エリツイン及び鄧小平と比較し、ロシアのプーチン政治及び中国の習近平政治を驚きの目で見ている。前者は、両国の歴史上、比較的民主的な時期であったと認識されている。

しかし **KDR** はそのような認識ではない：ではどの程度驚いたのか？

現在のようなプーチンの政治及び習近平の政治は、両国の歴史から見て”当たり前の政治形態”に戻ったに過ぎない。国の政治形態と国民の性格は伝承されるのである。そしてエリツイン時代及び鄧小平時代は、短期間だが民主政治（もしそうならば）が行われ、それは両国にとって”異常な政治”の時代であったのかもしれない。

まず第一に掌握した情報から話を始めよう。

KDR は、なぜ習近平がこの日のために前から準備を始めていた、と考えるのか？習近平は、二人の人物に本心から心酔している。一人は中国人で、一人は外国人だ。中国人は当然毛沢東であり、彼は言葉から動作まで毛沢東を模倣している。彼の一連の言葉に注意して見よ。これは金正恩が金日成を模倣するのに努力しているのに似ている。

これは、独裁者の心理的欠陥のなせる業である。

一人の外国人とは、プーチンである。

モスクワの権威筋は次のような話をした：習近平は主席に就任して以来、ソ連共産党の 819 政変、プーチンの治国理念、政治参加方式、選挙方式等々、極めて詳細にソ連崩壊の経緯について研究した。”819 政変に関わった若干の当事者”及びロシアの重量級政治学者（KDR は名前を公表しない）が中共中央党校に招聘され中共の政策研究機構で講演を行った。ある時は聴衆が 3000 人を超えたという。

そこで常に質問された項目は次のとおりである：

○なぜ 819 政変が発生したか？

○なぜ誰もエリツインのソ連分割を阻止できなかったのか？

○プーチンの”二人転（中国の民間芸術で、女形と道化役の二人が簡単な楽器を用いて踊りながら歌う（大修館、中日大辞典）”運用方式

これらの動向から判断すると、ロシア国内の多くのアナリスト及び本誌の判断は一致している：

1. 習近平は、再任を求めるだけでなく（しかも 1 回だけでなく）、終生任に就きたいと願っている。

なぜか？すでに彼の僅か 5 年の任期内に、反腐敗運動によって大量の血が流れた。鄧小平以来の”整風運動”を標榜した幹部リタイヤ制度は完全に覆された。鄧小平は再任されずに死んだ。同じことを繰り返してはならない、と。

反腐敗運動のために形成された政治闘争による利益集団は、当然習近平の再任を求めている。そうでなければ、王岐山のような人物が地位を保てるはずがない。

2. 彼は、鄧小平及び江沢民方式を踏襲したくないと考えている。いかなる形にせよ軍事委員会主席だけに再任され、総書記、国家主席から退出したのでは、反腐敗運動を継続することはできない。また台湾問題の最終解決もままならない。したがって彼は、プーチン型のモデルを選択し、徹底的な権力集中を図った。

3. 中国中南海の政治的ブレーン、中央党校等の担当部門がロシアの政治変革の問題を徹底研究したことから見ると、習近平の政治的ブレーンは、彼の身分を終身維持する最良の方法をすでに考えついたようだ。この方法は、以下に述べる方法である可能性がある：

A. プーチンのように、”二人で交互に交代する”方法。しかしこれは中国人の国民性に合わない。しかも交代要員に適当な人物がない。うまく行かない場合はどうするのか？

B. ”総書記”制度を”党主席”制度に変える。これは多くの中国メディアの報道に見られる。しかしなぜ必要か？総書記には任期の制限が無い。

C. 唯一の障害は、国家主席の再任が憲法で制限されていることだ。そこで憲法改正となった！

これは十分道理にかなっている。20 大で、総書記が再任される。引き続き道理にしたがって国家主席に当選し、自ずと国家軍事委員会主席を留任する。本来任期制限はない。理由は何か？党はどのように受け入れるか？軍はどのように対応するか？

多くの政治学者は次のように述べた：習近平の”憲法政変”は大きな抵抗を招くであろう。高層は全面的に受け入れるはずがない、と。

しかし **KDR** が掌握した確かな情報は次のとおりである：彼の再任問題について、党内の高いレベルでは相当程度共通認識を得ているようだ。特に軍は支持している。なぜか？鄧小平の幹部リタイヤ制度、選抜制度を徹底修正するためには理由付けとして必要だった。そうでなければ党が受け入れるはずがない。下層の党员にとっては受け入れるか否かは重要ではない。鍵は、各派の高層の代表となる人物が受け入れるかどうかにあった。

以下に述べる理由を見ていただきたい。また **KDR** が掌握した各種情報を見ていただきたい。昨年以降の漢和の記事を詳細に閲覧すれば、分かって頂けるはずである。習近平の準備は万全であり、それが多くの人が挑戦できなかった理由である。

第一に指摘できることは、彼が過去に述べた各種の理由である：

甲：二つの百年努力目標で小康社会を建設し、経済を振興する。現在最も重要な時期に到達しており、安定した政府と卓越した指導者が必要である。

読者は、この理由をすべて受け入れることができるであろうか？鄧小平の時代から改革開放は常にタイミングよく進められてきた。

乙：党内の腐敗、汚職の撲滅運動を遂行するには一人の強力な指導者が必要であり、長期にわたり運動を継続しなければならない。

この理由は、すべての読者に受け入れられるであろうか？習近平でなければ、腐敗撲滅運動を続けることができないのか？

丙：複雑な国際情勢の下、世界を洞察する一人の指導者が必要である。

この理由は、完全に人々を納得させることができるか？最も複雑な世界情勢は六四後（1989年の天安門事件）である。冷戦後の世界情勢は厳しい。ロシアにとっても同じである。現在、中米間或は其の他の国家間に大規模戦争開戦の動きがないとしても。

丁：軍事改革のために継続して習近平が必要か？

このため無期限に軍事委員会主席に就任させて良いのか？本当か？多くの人々は反対するはずがなく、憲法改正の必要はない。

卯：南シナ海問題を解決するためには強い指導者が必要である。

KDR が掌握した情報によると、党内、軍内にはこの問題についてすでに定説がある：“すなわち習近平の高遠な志の指導の下、この問題はすでに基本的に解決している”と。

南シナ海に人工島を建設したことは、すでに党内で習近平の”巨大な功績”とされ、これは 19 大で公開文書に記述されている。

上述のすべての理由は、論理的に判断すれば、憲法改正の理由にはならない。

どのような理由で党内各派が最終的に憲法改正を受け入れたのか？どのような理由で習近平の独裁を受け入れたのか？

プーチンを学習すると分かる。クリミア統一問題でプーチンが民心を掌握できなかったならば、もしクリミアが戻ってこなかったならば、プーチンの今回の

任期は相当困難に直面したであろう。

ゴルバチョフは、公の場で彼を下野させることを希望した。しかしプーチンにとってチャンスが巡ってきた。クリミアである。クリミアが回帰した後、ゴルバチョフを含め、反対の声は聞かれなくなった。

ついでに説明すると：クリミアの回帰方式を、中国の政治学者が極めて詳細に研究している。習近平にとってのクリミアは、”台湾解放”である。祖国統一の大業を完成し中国復興の夢を実現するには、強固な指導と長期間の安定した政治家が必要である、と。これを理由にすると、中共党内では反対者が口を閉ざす。したがって KDR の最近 2 年間で最も関心ある命題は常に：習近平の時代に台湾問題を解決するのか？である。

この点に関し、もう一度 KDR の最近 2 年間の報道記事を見ていただきたい。

2016 年夏、KDR は初めて中国政権内部の報告をした：習近平は、台湾関係部門、軍隊に、”対台湾独立軍事闘争”の最終方案を速やかに提出するよう指示した、と。”彼は台湾関係部門が提出した大量の各種学術論文にはもはや興味がなかった”と。

2013 年に総政治部が出版した習近平の内部講話シリーズは極めて明確に台湾に対する考え方を示している：最後の手段は軍事闘争準備である、と。

彼は、何度も軍事委員会、各艦隊司令部及び戦区の視察時の内部講話において次のように述べた：台湾問題を次の世代に残すわけには行かない、と。

この内部講話の一部を、2015 年総政治部は”内部版”として公式に発表した。過去 5 年来、習近平政治は、二つの大鉈をふるって進めており、分かりやすい。一つは、反汚職、腐敗撲滅である。これは、實際上政治闘争の必要性からきている。そうでなければ、恐怖政治のイメージを作り、迅速に権力を掌握することなどできない。このやり方は金正恩と同じである。権威のイメージを樹立し、敢て誰も挑戦できないようにしている。

二つ目は、軍隊の改革、軍の装備建設である。最終的に台湾問題を解決するための準備である。真に注目すべきものは、彼の 5 年の任期内に、中共の各レベルにおけるシンクタンクの対台湾研究方式が劇的に変化したことである。

過去の対台湾研究は、相当部分が学術研究であった。例えば、台湾の各種選挙における生態分析、兩岸の経済交流、政党交流等々であった。現在の多くの研究内容は、台湾経済の外部世界への依存度、輸入ソース、如何に軍隊、民進党に浸透するか等々である。

したがって習近平の憲法改正は、KDR が掌握した情報によると、高レベルの政治派閥間で共通認識を得ているものと思われる。そうでなければ、彼が敢えてこのような冒険をするはずがない。この背景には、党を挙げて台湾問題（祖国統一の大業）を解決する時期がすでに到来した、との共通認識がある。

以上